

早川町応援団獲得マガジン

やまたらけ

YAMADARAKE

DECEMBER

No. 38

2009

早川の 動物鑑 図鑑 1

遠くから聞こえる「フイー」という鳴き声。息を潜め、耳を澄ます。「フイーヨー」という音が続く。9月半ば頃から聞こえ始めるシカの縄張り宣言だ。山の中を歩くとガサガサ、ガサガサと慌てて動く音。バキバキと枝が折れる音も続く。蹄で歩く時の特徴だ。離れていくその音から、荒い鼻息も聞こえる。イノシシだ。近くで寝ていたのだろう。きれいに割られたクルミや、穴のあいたクルミが落ちている。リスやネズミがかじった跡だ。ちよつとした音にふと歩みを止め、息を殺しながら周りを見回す。姿は確認できないが、近くに生き物がいる気配を感じる。

山深い早川町には数多くの野生動物が生息している。それぞれが関係しあい、一つの生態系をつくっている。人間もその中にいる。最近、環境問題や生物多様性といった言葉がニュースで取り上げられることも少なくない。しかし、目の前にある自然を見ずにそれらを語ることはできない。早川の自然はどのようなものであるのか。今号では、早川にすむ野生生物を紹介しながら、自然と向き合い、自然といかに接してゆくかについて考えてみたい。(山本圭介)

集落周りに住む小型の動物



ホンドギツネ *Vulpes vulpes japonica*

★★★★☆

食肉目イヌ科ギツネ属

大きさ：60～75cm、体重：4～7kg

早川ではあまり出会うことも少ないが、時折車のヘッドライトにその姿が映し出されることも。



ホンドタヌキ
Nyctereutes procyonoides viverrinus

★★★★☆

食肉目イヌ科タヌキ属

大きさ：50～60cm、体重：3～5kg

馴染み深い動物だが最近では見るの少なくなっている。一時は疥癬という皮膚病が流行って数を減らしたとも。親離れが始まる秋頃には人前にもよく姿を見せるので交通事故に注意。(写真・野鳥公園 村田雅生)



アカネズミ *Apodemus speciosus*

★★★★☆

げっ歯目ネズミ科アカネズミ属

大きさ：80～140mm、体重：20～60g

日本各地で見ることができ。巣を地中につくり、夜に活動する。クルミにあける穴の明け方は特徴的。(写真・野鳥公園 村田雅生)

カヤネズミ *Micromys minutus*

★★★★☆

げっ歯目ネズミ科カヤネズミ属

大きさ：50～80mm、体重：7～14g

日本では一番小さなネズミ。ススキなどイネ科、カヤツリグサ科の植物があり水気があるところに営巣する。(写真・野鳥公園 村田雅生 ※写真は巣)



ハクビシン *Paguma larvata* ★★★★★

食肉目ジャコウネコ科ハクビシン属

大きさ：61～66cm、体重：3kg 程度

近年注目されている外来種。漢字で「白鼻芯」と書き、その名の通り顔に白い線がある。早川にもかなり前より定着している。雑食性だが果樹が大好き。一時は県の天然記念物に指定されたこともある。

ホンデン
Martes melampus melampus

★★★★☆

食肉目イタチ科テン属

大きさ：45cm、体重：1.1～1.5kg

夜行性であり見かけることができないが冬の黄色い毛並みの姿を見れた時は感動的！泳ぎが意外と上手いとも。(写真は剥製)



アナグマ *Meles meles anakuma* ★★★★★

食肉目イタチ科アナグマ属

大きさ：52cm、体重：12kg 程度

早川では「マミ」ともいう。民家の軒下に潜んでいたりと意外と近くに潜んでいる。長い爪を使って急な傾斜を自在に動く。



ホンダイタチ *Mustela itatsi* ★★★★★

食肉目イタチ科イタチ属

雄/大きさ：27～37cm、体重：300～700g

雌/大きさ：16～25cm、体重：140～300g

雌は雄と比較してかなり体が小さい。肉食性が強い。昔は養鶏小屋に忍び込んでニワトリを食べ、お腹が大きくなって出られなくなった、という話も。(写真は剥製)



森に住む小型の動物

ノウサギ *Lepus brachyurus*

★★★★☆

ウサギ目ウサギ科ノウサギ属

大きさ：43～54cm、体重：1.3～2.5kg

草本や木の芽、皮を食べる。糞は粒状。夏の糞は見つかりにくい。(写真・野鳥公園 村田雅生)



ホンドリス *Sciurus lis*

★★★★☆

げっ歯目リス科リス属

大きさ：16～22cm、体重：250～310g

主に樹上で生活し、夏毛は赤褐色、冬毛は黄褐色と毛の色が変わる。エサのひとつ、アカマツやカラマツの実を齧ると後に残るのはまるでエビフライのよう。(写真・野鳥公園 村田雅生)



ニホンモモンガ
Peteromys momonga

★★★★☆

げっ歯目リス科モモンガ属 大きさ：14～20cm、体重：150～220g

早川ではコパンともいう。ムササビとの見分け方については、モモンガは大きさだけでなく前足と首、後ろ足と尾の間にも皮があることで見分けられる。(写真なし)



ムササビ *Petaurista leucogenys*

★★★★☆

げっ歯目リス科ムササビ属

大きさ：34～48cm、体重：700～1,000g

日本固有種。早川ではオオバン、バンドリともいう。前足と後ろ足の間に膜状の皮があり、それを使って滑空する。(写真・株) 野生生物管理 繁田真由美)



キクガシラコウモリ
Rhinolophus ferrumequinum

★★★★☆

コウモリ目キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ属

大きさ：56～65mm、体重：17～35g

日本のコウモリの中では比較的大きい。鼻にある鼻葉というところが菊の花に似ていることでつけられた。(写真・野鳥公園 村田雅生)

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* ★★★★★

コウモリ目キクガシラコウモリ科キクガシラコウモリ属 大きさ：35～50mm、体重：4.5～9g

キクガシラコウモリと姿は似ているがキクガシラコウモリより半分ぐらいの大きさで、キクガシラコウモリより出す超音波の周波数が高い。小回りが利くので狭いところにも営巣したりする。(写真・野鳥公園 村田雅生)

岩穴や岩陰で暮らす動物



早川で出会える主な動物たち

出会える頻度を★で表してあります。★が多いほど良く見ることが出来る動物です。また、「大きさ」は成獣の平均的な大きさをもとに、頭胴長(尻尾の長さを除く)を記述してあります。取材協力：南アルプス県野鳥公園、参考文献：早川町誌、哺乳類学会(2009)『The Wild Mammals of Japan』松香堂、自然環境研究センター(2005)『日本の哺乳類』東海大学出版会

大型の動物

ツキノワグマ *Ursus thibetanus*

★★★★☆

食肉目クマ科クマ属

大きさ：120～145cm、体重：70～120kg

主に森林に生息し、雑食で果樹や昆虫を食べる。一般的に数が減っているといわれる一方で、町内には割と多く生息しているようで、樹皮剥ぎの被害が多く発生している。(写真・吉田洋)



ニホンカモシカ *Capricornis crispus*

★★★★☆

偶蹄目ウシ科カモシカ属

大きさ：70～85cm、体重：30～45kg

国指定特別天然記念物。崖など急斜面のところで立てて、こっちを見ていることがある。目の下に腺があり、その匂いを木にこすりつけてナワバリを示す。(写真・野鳥公園 村田雅生)

ホンシュウジカ *Cervus nippon centralis*

★★★★☆

偶蹄目シカ科シカ属

大きさ 雄：90～190cm、雌：90～150cm

体 重 雄：50～130kg、雌：25～80kg

地元猟師の話では、昔は早川町にはほとんどいなかったとか。近年はあちこちに出没し、農作物被害をはじめ、車との事故、高山植物の食害も問題になってきている。



ニホンイノシシ *Sus scrofa leucomystax*

★★★★☆

偶蹄目イノシシ科イノシシ属

大きさ：110～160cm、体重：50～150kg

早川町では徐々に数が減っているという。森の中やカヤが密生しているところに棲み、土を掘って昆虫や植物の根を主に食べる。人前あまり姿を見せないが、実は昼行性でもある。



ニホンザル *Macaca fuscata fuscata*

★★★★☆

霊長目オナガザル科マカク属

大きさ：47～60cm、体重：8～18kg

10 数頭以上の社会的な群れをつくり生活する。早川で最もよく見られる動物。時々、群れに入らないハナレザルが集落に入って農作物を荒らすこともある。(写真・野鳥公園 村田雅生)



早川町の自然の特徴

南アルプスの厳しさと豊かさ

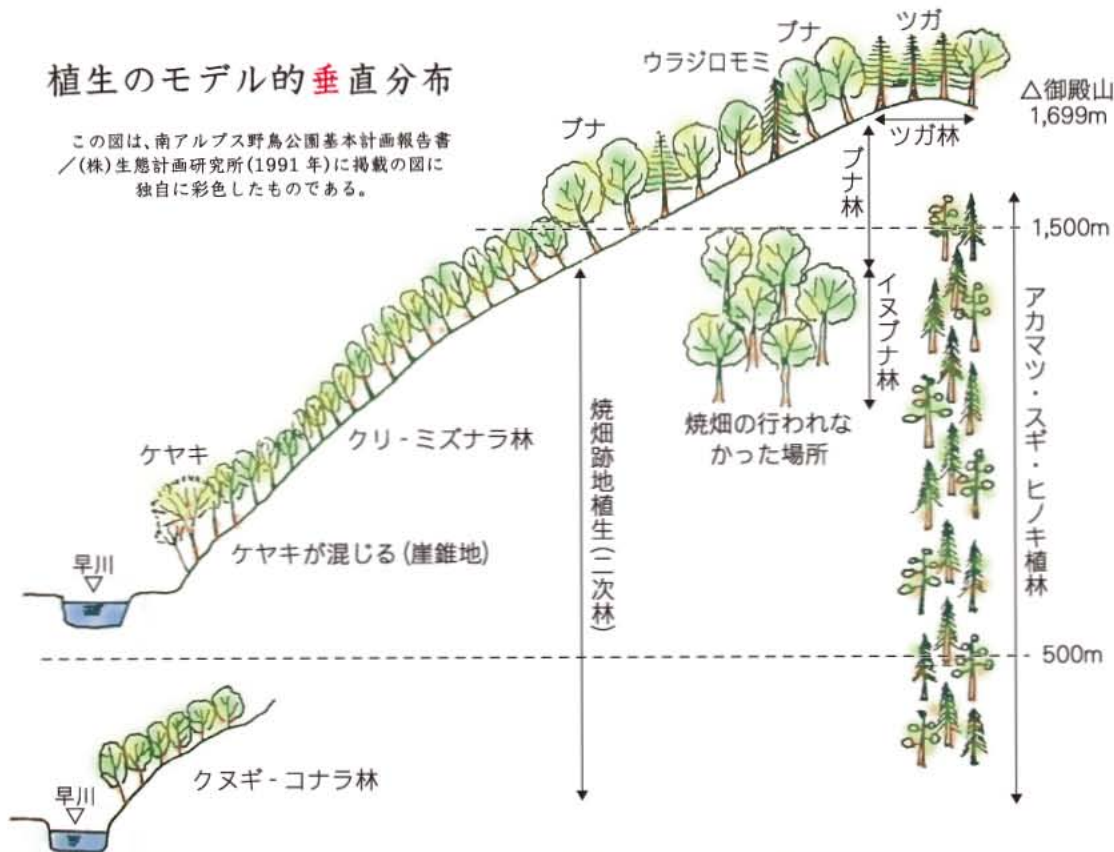
早川町の自然を特徴づけているもの、それは南アルプスの存在だろう。南北に長く、370平方kmの面積を抱え、最も標高が高いのは、日本で4番目に高い間ノ岳(3189m)。最も低い地点は230mで、標高差は2959mもある。そのため、暖帯から高山帯までの植物群落が存在する。南アルプスの南東側に位置していることも、温度や気候が穏やかで植生が豊かである一因だ。

また、早川町の94%は森林に覆われている。豊富な水資源に加え、野生動物が暮らす上で好条件であるため、早川町の動物相は多様である。人間の侵入を阻んできた自然の溪谷が、野生動物の暮らしやすい土地を作り上げてきた。

地形や気候との合作が早川の自然であり、ここに暮らす野生動物は自然の恩恵にあずかりながらも、時に陰しさを見せる自然に適応してきた。特にこの山岳地形で生きてきたカモシカが急斜面を縦横無尽に動く姿は、その土地で生命を営んできた姿そのものである。

植生のモデル的垂直分布

この図は、南アルプス野鳥公園基本計画報告書／(株)生態計画研究所(1991年)に掲載の図に独自に彩色したものである。



痕跡探しのススメ

動物の暮らしを垣間見る

野生動物に会いたいと思って森を歩いてても、簡単には出会えない。でも、森をよく見ると、その中には動物たちが生きている証がたくさん見つかる。ここでは、そんな動物たちの痕跡(フイールドサイン)をいくつか紹介する。

フイールドサインを探しながら歩いていると、目の前にいないはずの動物が見えてくるから、さあ不思議。でも、森を歩くときは、道に迷ったりクマに出会ったりしないように、くれぐれもお気をつけ下さい。

フイールドサイン①

足跡(あしあと)

河原の砂地には、たくさん足跡が見られる。水を飲むために、水際に集った野生動物たちの足跡だ。

痕跡を見る一番手軽な方法であり、足跡から動物種、おおよその体の大きさ、群れの大きさ、進行方向がみとれる。

フイールドサイン②

食痕(しょっこん)

食べた跡から動物の種類が分かる。さらに樹皮剥ぎに残った歯の跡からは口の大きさ、食べ残した量からは体の大きさを推し量ることができる。クルミを食べた跡は、穴の開け方や齧り割り方でアカネズミとリスを見分けることができる。



リスはクルミを二つに割って食べる。横腹に穴があいているのは、アカネズミが食べた跡。



フィールドサイン③ けものみち

目を凝らして草むらを見ると、草がかき分けたり、土があらわになっていたり、ところがある。そこが、けものみち。動物たちが、何度も踏みつけ通った跡だ。いろいろな種類の動物が、同じ道を使うようだ。



山道を歩いていると、思わずけものみちに入ってしまうことも。

フィールドサイン⑤ 巣、ヌタ場

集落から少しはなれたところに巣やヌタ場をつくる野生動物もいる。ヌタ場とは、イノシシがノミやダニを落とすため、秋のオスジ力が匂いをつけるために泥浴びをする場所だ。



イノシシのヌタ場

フィールドサイン④ 糞(ふん)

大きいものから小さいものまで、様々な色や形のフンが落ちている。コロコロとしたシカの糞。緑色で上品な感じのノウサギの糞。ぼつりしたイノシシの糞からは、サワガニの甲羅やネズミの骨が見つかることも。糞をよく見ること、動物の食事内容が分かる。



上：熊の糞
下：ノウサギの糞

フィールドサイン⑥ 樹皮剥ぎ

森の中を歩くと、皮がめくりとられた木に出会うことがある。写真は爪を立ててツキノワグマが剥いだ跡だ。ニホンジカは木の皮を食べる(皮の中の樹液を食べるという説もある)。

また、行動範囲やなわばりに匂い付けする動物は多い。角や体を木の幹にこすりつけたり、独特の匂いの



シカの足の骨。

フィールドサイン⑦ 骨、角

森の中に、骨や角が落ちていたこともある。寿命や何らかの理由で命を落とす野生動物もいる。頭骨の歯の並び方はそれぞれに特徴があり、歯式をもとに種類を特定することができる。また、春前に落ちるシカの角も、大きさ推定の材料となる。



クマに皮を剥がされたアカマツ。

人間と動物の関わりを考える

今、早川町をはじめ、山村での深刻な問題の一つに野生動物による農作物被害、いわゆる獣害がある。そもそも獣害は今に始まったものではなく、昔から全国的にあった。歴史の中では餓死者を何千人と出した獣害由来の飢饉もあったり、シシ垣と呼ばれる猪除けの石垣を築いたところもある。人間と野生動物の攻防は長きに渡って続いて来たのだ。

ヤマイヌと呼ばれたニホンオオカミが生きていた時代には、人はヤマイヌを獣害防除のシンボルとした。農耕の中で、特にシカやイノシシと生活領域が重なると、農作物はたちまち被害を受ける。ニホンオオカミはこうした動物を狩るため、人間は恐れを抱きながらも崇拝していったのである。



有名で信仰深いヤマイヌ三峯神社のお札

変化する獣害の捉え方

獣害が現代のように取り上げられるようになってきた原因は、自然環境の変化もあるが農業構造や山村の生活様式が変化したことにも由来すると考えるのが一般的だ。

早川町でも、農作物の被害を防ぐために1999年から大型の電気柵を11集落で設置するなどしてきた。しかし過疎高齢化のため、電気柵を管理し

きれず、被害を受ける農地は増え続けている。また、被害は農作物にとどまらず、自動車とシカの衝突事故なども多発している。

人間と野生動物の境界線

この地の生活や文化は守り続けていきたいと思う一方で、野生生物との暮らしはどうあればよいのか思い悩む時がある。

人それぞれ自然に対する考え方や思いは違うが、人間と野生動物が共存するための策も、相手を知ることで見出せるかもしれない。観察を楽しむだけでなく、野生動物といかにして共存するか思いを巡らしてみるのがいい。野生生物との境界線が崩れつつある責任は、人間の側にもある。境界線を維持するのは、山に暮らし続けている上での責任なのかもしれない。獣害とその対策は、人間と野生生物との共存のための試行錯誤と捉えたい。



野生生物(ニホンザル)による被害を受けた大根畑。家の裏の畑でも、こうした被害が起きている。

赤沢・春木川・大城・安倍峠・梅ヶ島温泉

安倍峠は、隣の身延町大城と、静岡市葵区梅ヶ島温泉との間にある峠だ。

梅ヶ島温泉は、おねしよに効く温泉と言われている。かつては、農閑期になると、赤沢などの集落から、小さい子どもがおじいさんやおばあさんに連れられて湯治に行ったそう。早川の先人は、自分たちの周囲の峠道だけでなく、こんなところにも遠征していたのである。

在、早川と身延の町境になっている峠を越え、身延町大城に出る。そこからさらに安倍峠を越えると、梅ヶ島温泉にたどり着く。登ったり下ったり、子どもの足でよく歩いたものだ。

現在、国道52号線の身延町大城から林道が通っており、自動車で行ける。

峠は、車道より少し低いところがあり、オオイタヤメイゲツという楓の林になっている。紅葉の時にはさぞかしきれいなことだろう。笹も茂っていて、往時も同じ

ような景色だったのだろうと思わせる。

峠から、滝などを途中に見ながら林道を下ると、ひなびた雰囲気、梅ヶ島温泉に着く。

湯治の時は、1週間くらい滞在したという。歩きに歩いて湯治場にたどり着き、1週間ほど骨休め。そして、帰りの山道を登って下って。湯治で吹き飛んだ疲れも、家に着いたら元通りになってしまいたい！

体を休めるために峠越え。早川の先人の健脚ぶりが身に沁み

た。(柴田彩子)



峠の様子。車道が通っていないので、昔ながらの雰囲気が残っている。安倍峠のオオイタヤメイゲツ(写真下)は、学術参考林に指定されている。



峠にある看板。安倍峠からは、大光山、八絃嶺などへの登山道が続いている。



読者の声

○早川の自然が芸術活動に力をくれるというのは、とてもよく分かる気がします。私もこの秋は、力をもらうために早川に行こうと思います！(千代田区Mさん)

○池の茶屋峠のリポート、良かったです。これまで通って来たことがありませんでしたが、なんとか車で通れることを知りました。これからもこういったレポート期待しています。(八王子市、Nさん)

○おばあちゃんの試してレシピの2品を作ってみました。手軽で美味しかったですね。(山梨県中央市、Iさん)

編集部：この秋、そば祭りをはじめ、町内各所で会員の方々にお会いすることができました。来町ありがとうございました！

■NEXT やまだらけ

39号特集(2月上旬お届け)

「乾物の知恵と技」

冬の寒さが厳しい早川町。農作物がとれない冬にちゃんと食べつないでいくために、保存食の文化が育まれ、受け継がれて来ました。次号では、そんな保存食の中でも、乾物に着目し、その知恵と技術、そして美味しい食べ方を紹介したいと思います。お楽しみに！

訂正とお詫び：前号に以下の間違いがありました。この場を借りて訂正させていただきます。同時に、謹んでお詫び申し上げます。

■木工房淳司の電話番号(挟み込みA4)
誤：0556-45-2577→正：0556-45-2557
■執筆者の名前(表紙の文章の最後)
誤：鹿島俊洸→正：鹿島健利

野生動物を調査していると、その生態に驚かされることがたくさんあります。狩りをしたり木の実を食べたり、それぞれの長い進化の時間を通して、どうしてそのような生活史になったのかを知ってゆくとなおさらです。春になったらこの図鑑を片手に早川の野生動物に出会いに行きませんか。今まで気付かなかった一面を知ると楽しめること請け合いです。

山を覗けば宝の山
やまだらけ

豪華賞品？が当たる やまだらけクイズ！16

問：天然記念物の「ニホンカモシカ」は、どの動物の仲間でしょうか？以下の選択肢の中からお選び下さい！

答1、名前から一目瞭然「シカ」の仲間
2、軽やかな走りは「ウマ」の仲間
3、あの太めの体型は「ウシ」の仲間

正解者の中から抽選で2名様に、鹿の角で作った小物をプレゼントします！

前回のクイズの正解は、2のアフリカの民話に出てくる妖精の名前「OGON」からとったでした。抽選の結果、森と水の源流館さん(川上村)、三芳絹代さん(川越市)の2名が当選しました。おめでとうございます！

応募総数 25票のうち、15票が正解でした。

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/